

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月19日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・1歳児「秋の自然を見たり、触ったりしてみよう」

<テーマ設定理由>

春から継続的に散歩に出掛けています。秋になっていよいよ散歩日和となり、子ども達もお散歩車からしっかりと足取りで歩けるようになってきました。近隣の公園や霊園、園庭から見える樹々が色付き始め、歩いて散策する中でより身近に秋を感じることができるようになってきました。そこで今回は思い切り全身で秋を感じ、さまざまな自然の中で探究活動をすることにしました。

### 2. 活動スケジュール

10月から11月にかけて毎週のように散歩に出掛けています。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・子どもが見つけたどんぐりや落ち葉を持ち帰るためのビニール袋。

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

・朝は玩具のカバンを出すと嬉しそうにお出掛けごっこなどをしたりまごをよよく楽しんだりしていた。  
 ・9:00～朝のおやつを食べ、9:30～散歩に出掛ける。  
 ・散歩はそれぞれ友達と手を繋ぎながら原っぱへ出かけた。道中、車やバイクが見えたり通ったりすると喜んで手を振ったり指差して保育士に知らせたりしていた。また、落ち葉を足で踏みながら音や感触を楽しんだり、原っぱでは落ち葉拾いを楽しんだりして自然に触れた。様々な形や色の葉っぱを拾い喜んだり、友達と原っぱを走ったりしていた。  
 ・帰り道に新青梅街道沿い付近に寄ってどんぐり拾いも楽しんだ。大きくてきれいなどんぐりを見つけると夢中で拾いながら好きな遊びを楽しみ過ごしていた。  
 ・10:50頃に帰園する。  
 気候が良く、散歩で落ち葉やどんぐり拾いをして秋の自然に触れられるようにした。道中でも足で落ち葉を踏み楽しんだり、見えたものを喜んだりする姿が多かったため、子どもの発見や楽しい気持ちに寄り添いながら、自然に親しめるよう関わっていった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

・たくさん積もった落ち葉を踏んで「カサカサする」「ふかふかしてる」と音や感触の違いに気づきました。  
 ・切り株の穴や木の幹の毛のような繊維を指さし、「ここに何かいる?」「変な形してる」と不思議さに気付いている様子。  
 ・どんぐりや小さな実、草の葉を一つひとつ拾い集め、「あった」「いっぱい」などの言葉が聞かれました。  
 ・落ち葉の上を走りながら歓声をあげたり、「(はっば)いっぱい!」など、体を動かす気持ちよさを感じているようでした。  
 ・切り株や木の幹を触って「ガサガサ」「チクチク」「あった!」など、触った感じを音で表現したり、何かを見つけた喜びを伝えようとしています。  
 ・どんぐりを拾いながら「おんなじ」「もっと」「ちょうだい(の仕草)」など、探すことを楽しむだけでなく様々な言葉が出ていました。  
 ・保育者が「どんな音がするかな」と聞くことによって、足で落ち葉を踏む仕草を子どもがしていました。その姿や表情を受け止めて「カサカサって音するね」「こっちはひんやりしてるね」と子どもの気付きに言葉を添え、子どもが同じ場所をもう一度踏んだり触ったりして確かめるやり取りをしました。  
 ・切り株や木の幹を囲んで、穴があいていることに子どもは興味をもっていました。保育者が「穴の中、なにがいるかな?」「どんぐり隠れてる?」と問いかけ、子どもたちが順番に指を入れたり覗き込んだりして共通の興味を広げていました。  
 ・木の幹から髭のようなものが出ていることに気づいて指差して教えていました。恐る恐る手を差し伸べて触ろうとしていました。  
 ・どんぐりや葉っぱを見せ合いながら「どうぞ」「いれる」と袋やポケットに集める活動を通して、簡単なやり取りや模倣が生まれていました。



### 1. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・落ち葉の上を思いきり走る子、じっとしゃがんで木の切り株や幹を触る子、どんぐり拾いに集中する子など、同じ環境でも興味の向きや遊び方が大きく違う。  
 ・「歩く・走る・しゃがむ・拾う・指さす」などの動きや、安心できる保育士のもとで子ども達は気付いたこと感じたことを表情や動きで表していることに気づきました。  
 ・広い原っぱや落ち葉・切り株・木の幹などが、特別な玩具がなくても子どもたちの探索意欲や想像力を十分に引き出していることに気づきました。  
 ・一つの切り株や木を複数の子どもが囲んで覗き込む姿から、一緒に見るきっかけとなり、1歳児でも簡単なやり取りが生まれていました。  
 ・保育士が少し離れて見守る場面と、そばに寄り添いながら話しかけている場面の両方があり、距離や声かけの仕方でも子どもの自発性や安心感を大切にしていると思いました。  
 ・子どもが指さしや「見てほしい」表情を向けたときに共感的に応じることで、さらに探索が深まる様子から、「子どもの発見を言葉にして返す」ことの大切さを感じました。  
 ・広い原っぱで複数の子どもが散らばる状況でも、見通しの良い場所の選択や保育士の立ち位置・人数配置が安全と自由な探索の両立に重要だと思いました。  
 ・枯れ枝やどんぐり、小さな段差など危険もあるということ意識しておくことの大事さと、1歳児の自分でやってみようという気持ちとのバランスをどうとるか考えるきっかけになりました。  
 ・外遊びの中でよく歩く・走る経験が、食欲や睡眠リズム、情緒の安定にもつながることを改めて感じ、日々の保育計画に自然遊びを位置づけた。  
 ・写真を通して、保護者には「秋の自然の中で、こんな発見をしている」「こういう姿が見られるので、園ではこのねらいを大事にしている」と具体的に伝えられる。